【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年12月3日(2009.12.3)

【公開番号】特開2008-102216(P2008-102216A)
【公開日】平成20年5月1日(2008.5.1)
【年通号数】公開・登録公報2008-017
【出願番号】特願2006-283121(P2006-283121)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　15/16　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　21/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　15/16　１０３
Ｇ０３Ｇ　21/00　３７２

【手続補正書】
【提出日】平成21年10月15日(2009.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
トナー像を担持する像担持体と、前記像担持体上のトナー像を転写材に転写する転写部材と、前記転写部材に対してバイアスを出力するバイアス出力手段と、を有し、前記バイアス出力手段が転写バイアスを前記転写部材に対して出力することによって前記像担持体と前記転写部材との間を通過する転写材上に前記像担持体上のトナー像を転写する画像形成装置において、
前記バイアス出力手段が出力するバイアスの電流と電圧の関係を検知する検知手段とを有し、
転写材に前記像担持体上のトナー像を転写する前に前記検知手段が検知した電流と電圧の関係に基づいて前記転写部材の種類を判別し、前記転写部材の種類に応じてプロセス制御を制御する制御手段を有することを特徴とする画像形成装置。
【請求項２】
前記検知手段が検知する前記バイアス出力手段が前記転写部材に対して定電圧を出力した時の電流の時間変化に基づいて前記転写部材の種類を判別することを特徴とする請求項１に記載の画像形成装置。
【請求項３】
前記検知手段が検知する前記バイアス出力手段が前記転写部材に対して定電流を出力した時の電圧の時間変化に基づいて前記転写部材の種類を判別することを特徴とする請求項１に記載の画像形成装置。
【請求項４】
前記制御手段は、前記プロセス制御として、前記転写バイアスを制御することを特徴とする請求項１から３のいずれか一項に記載の画像形成装置。
【請求項５】
前記制御手段は、前記プロセス制御として、転写材の搬送速度を制御することを特徴とする請求項１から３のいずれか一項に記載の画像形成装置。
【請求項６】
転写材に前記像担持体上のトナー像を転写する転写部において前記転写材は前記像担持

体と前記転写部材とで挟持されて搬送されると共に、該転写部よりも前記転写材の移動方向下流側には前記転写材が第１部材と第２部材とで挟持されて搬送される搬送部が設けられており、前記制御手段は、前記転写材を搬送する部材として、前記搬送部の前記第１部材及び第２部材のうち少なくとも一方の駆動速度を制御することを特徴とする請求項５に記載の画像形成装置。
【請求項７】
前記搬送部は、転写材にトナーを定着させる定着装置であることを特徴とする請求項６に記載の画像形成装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
上記目的は本発明に係る画像形成装置にて達成される。要約すれば、本発明は、トナー像を担持する像担持体と、前記像担持体上のトナー像を転写材に転写する転写部材と、前記転写部材に対してバイアスを出力するバイアス出力手段と、を有し、前記バイアス出力手段が転写バイアスを前記転写部材に対して出力することによって前記像担持体と前記転写部材との間を通過する転写材上に前記像担持体上のトナー像を転写する画像形成装置において、
前記バイアス出力手段が出力するバイアスの電流と電圧の関係を検知する検知手段とを有し、
転写材に前記像担持体上のトナー像を転写する前に前記検知手段が検知した電流と電圧の関係に基づいて前記転写部材の種類を判別し、前記転写部材の種類に応じてプロセス制御を制御する制御手段を有することを特徴とする画像形成装置である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明の一実施態様によると、前記検知手段が検知する前記バイアス出力手段が前記転写部材に対して定電圧を出力した時の電流の時間変化に基づいて前記転写部材の種類を判別する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明の他の実施態様によると、前記検知手段が検知する前記バイアス出力手段が前記転写部材に対して定電流を出力した時の電圧の時間変化に基づいて前記転写部材の種類を判別する。